

平成30年9月11日

隠岐支庁農林局農政・普及部

標 題 学校給食向け野菜に係る意見交換会を開催

(ダイジェスト)

学校給食における地場産野菜の出荷促進を目的に、生産者と関係機関との意見交換会を開催しました。

意見交換会では、関係機関から出荷方法に係る改正（案）を説明し、各生産者から意見を収集しました。関係者の意思疎通を図る上で有意義な会となり、今後も関係者と連携して使用率向上に取り組んでいきます。

隠岐の島町では、生産者と関係機関が連携して、地産地消を推進しており、学校給食や直売所向け野菜の生産拡大に取り組んでいます。

その中で、学校給食における地場産野菜の使用率向上が課題となっており、今年度から町農林水産課が、学校給食センター、JA及び農林局の担当者を定期的に召集して、対策を検討しているところです。

今回、9月5日に隠岐農産物生産者協議会主催で、学校給食への出荷促進を目的とした意見交換会を開催し、生産者など15名が参加しました。

意見交換会では、関係機関から「発注から納品までの流れ」や出荷規格について、改正（案）を説明し、各生産者から意見を収集しました。

生産者からは、「より小粒（100～150g/個）のジャガイモが、新たに規格に記載され、出荷し易くなった」等、出荷規格については一定の評価がありました。

一方で、「発注から納品までの流れ」については、「天候等の影響により、出荷2週間前に正確な量を伝えることは難しい」といった意見が出されました。

学校給食センターからは、生産者側の意見を踏まえた上で「出荷2週間前に大凡の予定量を把握し、1週間前迄に正確な量をお知らせ願いたい」との提案がありました。

出荷における関係者の意思疎通を図る上で、今回の意見交換会は有意義ものとなりましたが、地場産野菜の生産を拡大するためには、新たな担い手の確保等も課題となっていることから、今後も関係者との連携を密にして、使用率向上に取り組んでいきたいと考えています。



写真 意見交換会の様子